

新地域医療連携センター長より

01



このたび地域医療連携センター長を拝命いたしました齋藤幸代です。これまで国立病院機構病院で約30年勤務し前施設でも主に地域連携業務に携わっておりました。当センターは、前任の古城副院長兼看護部長が連携システムを構築されました。今後はさらなる連携と地域からのニーズを把握して地域医療へ貢献することがミッションと認識しております。また、ホスピタリティの語訳である「客、訪問者、見知らぬ人に対して偏見なく、好意的に行われる歓迎ともてなしの行為と実践」をモットーに愛と奉仕の精神で職務に取り組む所存です。なにとぞよろしくお願ひいたします。

地域医療連携センター センター長 齋藤 幸代

4月から感染対策室に入職しました。

02



はじめまして、感染管理認定看護師の横越貴子です。感染管理認定看護師になり9年目になります。前職のAOI名古屋病院（旧名古屋通信病院）でも病院の感染管理に携わってきました。この度、聖霊病院の感染対策室に配属になり、前病院で培った新型コロナウイルス感染症対策や手指衛生多角的戦略などを生かしていきたいと思っています。「防ぐことのできる感染」から病院に関わるすべての方を守っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

感染対策室 横越 貴子

新薬局長より

03



この4月に薬局長に就任しました北川と申します。よろしくお願ひいたします。薬剤師は、医薬品の適正使用と安全管理で社会に貢献していく仕事だと私は考えています。当薬剤部ではセントラル業務として調剤、製剤、医薬品管理、医薬品情報などの業務を行い、薬物療法が円滑に行える体制を整えています。また、病棟業務やチーム医療では患者様の詳細な情報収取を行い、他の医療スタッフと共によりよい医療を目指しています。近年、複雑化する薬物療法や医薬品供給問題にも対応して安全な医療が提供できるよう日々努力したいと思っています。

薬局長 北川 穎二

常勤医師入職のご案内

04

2025年1月に堀田医師、今年4月に今村医師と有賀医師、研修医の長岡医師と中津医師を迎えるました。よろしくお願ひいたします。



内科、緩和ケア科
堀田 直樹
院長補佐 緩和ケア副部長
専門領域：肝臓疾患、緩和ケア、消化器一般



内科
今村 祐志
内科部長
専門領域：消化器内科



小児科
有賀 ひらり
専門領域：小児科一般



研修医
長岡 完



研修医
中津 翔貴

聖風 せいふう

2025.6月号

発行責任者／院長 春田 純一 ●編集／総務課 広報係

社会福祉法人聖霊会
聖霊病院
HOLY SPIRIT HOSPITAL

〒466-8633 名古屋市昭和区川名山町56番地
Tel: 052-832-1181
<https://www.seirei-hospital.org>



撮影場所：ホスピス聖霊内 聖堂

今年度の抱負について



院長
春田 純一

4月1日に当院は懸案であった緩和病棟を再開しました。伊藤靖彦部長、松川師長、1月から赴任された堀田院長補佐をはじめ多くのスタッフ、またボランティアさんの支えがあってここまで来ることができました。書面をお借りして関係者に篤く御礼申し上げます。緩和病棟は今後当院運営の大きな柱になることは間違ひありません。名古屋東部地区唯一の緩和病棟となるため、近隣の医療施設、住民の方々から多くの期待が寄せられています。職員一同ご期待に沿えるよう頑張って行きたいと思います。

4月には新任医師2名、研修医2名を迎えることができました。今村祐志先生は愛知医大ご出身で、3月まで川崎医大消化器内科准教授を務められていました。ご専門の消化器内視鏡だけなく、内科一般も含めて高齢者救急医療を支えて頂けるものと思っています。有賀ひらり先生は名市大から赴任され、小児医療を担当されます。研修医2名は内科、緩和医療に興味を持って頂いていると伺い、期待しています。診療内容をより充実できるよう職員一同努力したいと考えております。

「春風や闘志抱きて丘に立つ」4月になると思い出す高浜虚子の有名な俳句です。闘志を持って1年を乗り切りましょう。

新任のごあいさつ



院長補佐
緩和ケア副部長
堀田 直樹

はじめまして。2025年1月より赴任いたしました堀田直樹です。大学病院で1年研修し、2年目に当院に出向研修しました。今でも赴任した日のことは鮮明に覚えています。当時は花井院長が担当患者を決められ、私の最初の担当患者さんは、心筋梗塞とMDSの患者さんでした。大学病院では消化器内科で研修をしていたため、ほぼ分からぬ状態でしたので、上司の先生方に内科学を教えていただきいたことや、当時は週2回の抄読会があり、英語の苦手な私は四苦八苦しながら英訳し、その後病気の診断をし発表をしていました。そして、再び当院とのご縁があり、戻ってきました。微力ではありますが、ホスピス運営に役立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

ホスピス病棟再開に寄せて



ホスピス聖霊再開にあたり、皆様には一方ならぬご支援を賜りましたこと、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

ホスピス聖霊は、東海地方唯一のカトリック医療機関の緩和ケア病棟として、からだの痛みだけでなく、こころの安らぎを感じられるケアを理念に掲げて開設しました。ホスピスが閉鎖していた期間も、一般病棟で緩和ケア治療を継続してきた身としましては、この日を迎えたことを大変うれしく思います。

また、緩和ケア副部長の堀田医師をはじめ、ホスピスケアに賛同したスタッフを内外から迎え、新体制でスタートしました。病棟再開から日が浅く、毎日が手探りではあります、患者さんとご家族に真摯に向き合いながら、より良いホスピスケアを探求していく所存です。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

緩和ケア部長 伊藤 靖彦



4月1日、2名の医師と16名の看護師にて、新・ホスピス聖霊が始動しました。2年にわたる閉鎖中は、患者さんやご家族、近隣の医療機関の方々にはたいへんご不便をおかけしました。

集まったメンバーのほとんどは外部からの入職者で、緩和ケアをやってみたいという志のある看護師たちです。

ご覧になった方もいらっしゃるかもしれません、新・ホスピス聖霊の様子はNHKの「まるっと！」でも放送されました。

緩和ケア・ホスピスは『終の棲家』というイメージがありますが、最近では、『がんと診断された時から緩和ケア』と言われているように、治療経過の中で生じる心身のつらさをコントロールして、できる限り普段通りの生活を送れるようにすることが大切な目標です。

そして、終末期においては、痛みや不安を和らげ、最期までその人が希望通りに生きられるよう寄り添うことで人間らしさやその人らしさを尊重することが最大の目標です。ひとりでも多くの方に、「ホスピス聖霊に来てよかったです」と思っていただけるようスタッフ皆で心のこもったホスピスケアを提供していきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

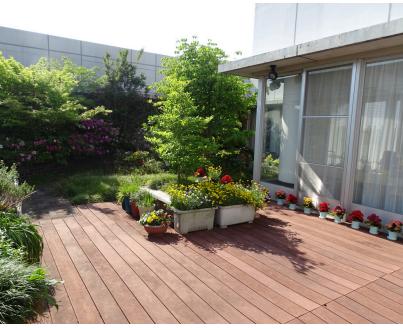
ホスピス師長 松川 幸江



ホスピス聖霊スタッフ



ボランティア（にじの会）



ホスピス内庭園

ホスピス聖霊について講演いたしました



2025年度第1回「ホスピス聖霊について」
開催日時：2025年5月12日（月）14:00～

当院は2か月に1度の頻度で、イオン八事店様の4Fイベントコーナーをお借りして地域の方に向けた健康講座を開催しています。今回は、伊藤緩和ケア部長より、ホスピス聖霊についてご紹介させていただくと共に、がん治療や緩和ケア、ホスピス病棟についてご説明させていただきました。

当日は多数の方が参加され盛況のうちに終了いたしました。実際にご家族の入院を検討されている方もいらっしゃり、ご質問の内容も具体的で皆様のご関心の高さが伺えました。

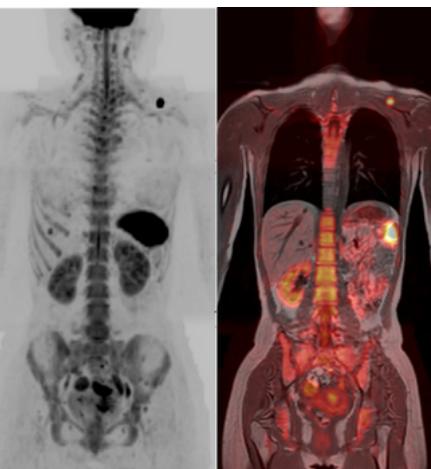
帯状疱疹を予防しよう！



みなさん、「帯状疱疹」という病気を知っていますか？帯状疱疹とは、体の片側の一部にピリピリとした痛みを感じ、その部分に赤い発疹や水ぶくれが出現します。強い痛みを伴うことが多い、日本では80歳までに約3人に1人がかかるといわれています。帯状疱疹の発症には免疫力が関係しており、その要因としては加齢、過労、過度のストレスなどがあげられます。また皮膚症状が治った後も、痛みが長期間残る帯状疱疹後神経痛になる可能性があります。帯状疱疹は早期診断、早期治療が重要だと言われていますが、それ以外にも現在では帯状疱疹を予防するためのワクチンも存在しています。名古屋市では、50歳以上の方で、条件があてはまれば費用助成を受けて帯状疱疹ワクチンを接種することができます。もう少し詳しく知りたい方や接種希望の方は当院1階の内科外来で受付を行っておりまし、皮膚科にてご相談いただくこともできます。

皮膚科医長 加藤 香澄

全身のがんを調べる新しい画像検査「DWIBS（ドゥイブス）」



【DWIBS画像】

DWIBS検査は、MRIを使って全身のがんや炎症などの異常を発見する、最新の画像検査です。放射線を使用しないため、体への負担が少なく、安心して受けていただけます。検査時間は約40～50分で、PET検査に近い情報が得られるため、がんの早期発見や健康管理に役立ちます。特にがんの家族歴がある方や、定期的な健康管理を重視されている方にはおすすめの検査です。ご自身の健康状態を「見える化」する第一歩として、気になる症状がなくても、一度チェックしてみませんか？DWIBS検査の詳細は、1階総合受付前および放射線技術科受付前に設置しているパンフレット、または当院のホームページでもご確認いただけます。

毎日を安心して過ごすために、DWIBS検査をご活用ください。

放射線技術科 副技師長 米澤 伸哉

新入職員研修について



看護部は今年度15名の新人看護師を迎えました。4月の研修では社会人としての接遇やマナー、医療安全・感染対策などの基本的知識、食事介助などの基礎看護技術を7日間にわたり行いました。今年度は看護主任会主催の院内散策が好評でした。院内散策とは病院という病院の構造を知ることと、チームで問題を解決することを目的とした研修です。臨床検査科に検体を運搬したり、薬剤部での薬剤の受け取りなどの日常業務をミッションとして、ゲーム感覚で院内の部署配置や、部署訪問する際の注意点などを学びました。新人看護職員研修では、講義以外にゲームを取り入れ、緊張している新人さんたちの気持ちをほぐしながらすすめています。

名札に緑色のラインが入っている看護師が今年度の新人看護師です。まだまだ緊張した面持ちではありますが、元気いっぱいの新人看護師たちをよろしくお願いいたします。

教育担当師長 横江 由紀子